

『 遺伝子でわかる、C型肝炎治療の効果予測！！ 』

肝臓川柳



『遺伝子で 効果がわかる いいでしょう』

(良いでしょう・・・いいでんしょう・・・いいでんし・・・)

2003年にヒトゲノム計画が完了し、ヒト遺伝子の30億個からなる全塩基配列が明らかになりました。

【予備知識】

それとともにヒトにより違いが出る部位も明らかになりました。

何故違う部位が出来るのか？違う部位があると何が違うのか？を研究

病気や治療と関連するものは、遺伝子診断として活用

1つの塩基の違い⇒一塩基多型 (SNPs (single nucleotide polymorphism))

今回、C型肝炎に対する標準治療である 『ペグインターフェロン、リバビリン併用療法』を行い、《効いた人》と《効かなかった人》で調べた所、

『IL-28B 遺伝子』という部位に違い(一塩基多型(SNPs))がある事が分かりました。

★ここ重要★

すなわち『IL28B 遺伝子』を調べれば前もって治療が効きそうかどうか、が分かるのです。

去年秋に発表され、大変な話題になっています。

これにより ○根治が望める方は積極的治療を行い

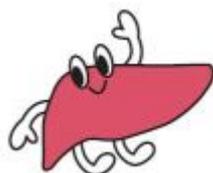
○効かない方は無用な苦痛や出費から逃れる事が出来る

いわゆる★テーラーメイド医療★が実現します。

現在は専門の研究室でしか調べられませんが、もうすぐ普通の検査として登場予定です。ただし、遺伝子という個人情報ですので、今後取り扱いが問題になると考えられます。

また、効かないと前もって分かった方は、どう治療するかが問題です。

色々な問題はありますがC型肝炎治療効果予測にも遺伝子診断が登場しました。



これだけ覚えておけば損はない！

今 回 の ポ イ ン ト

遺伝子を調べる事によりC型肝炎治療の効果予測が可能となってきました。積極的な治療をするのかなどテーラーメイド医療が実現します。種々の問題はありますが、肝炎治療は進歩しています。

(文 : 福井県肝疾患診療連携拠点病院協議会 野ッ俣 和夫)